

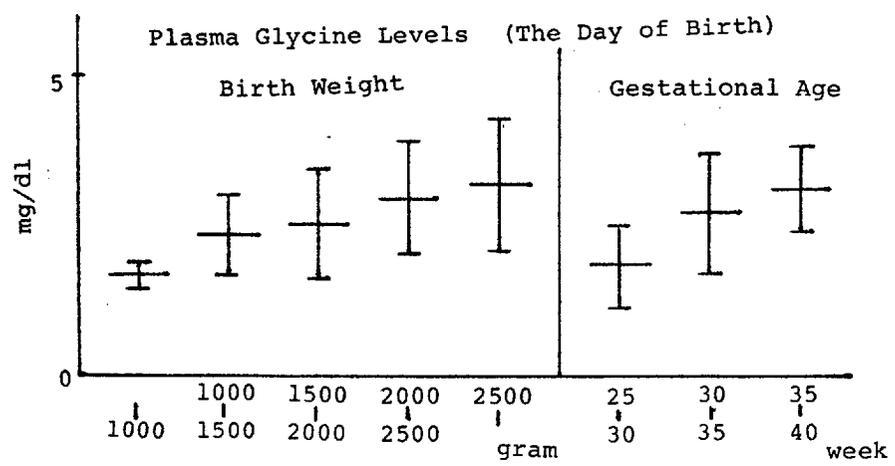
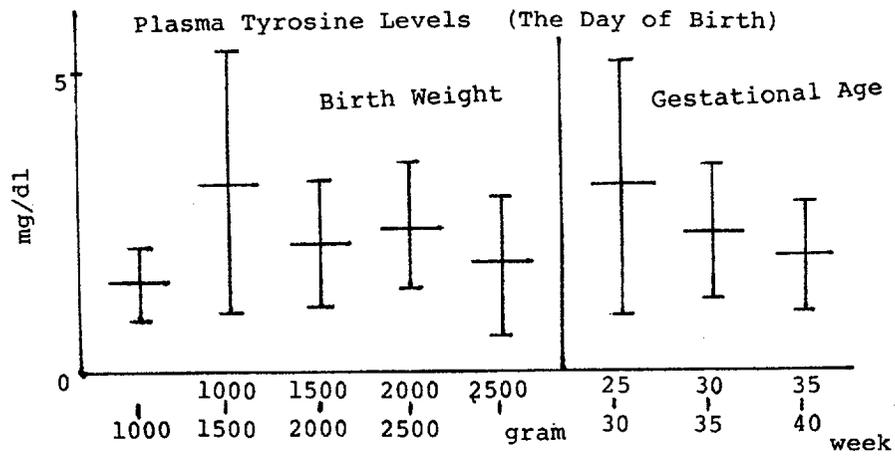
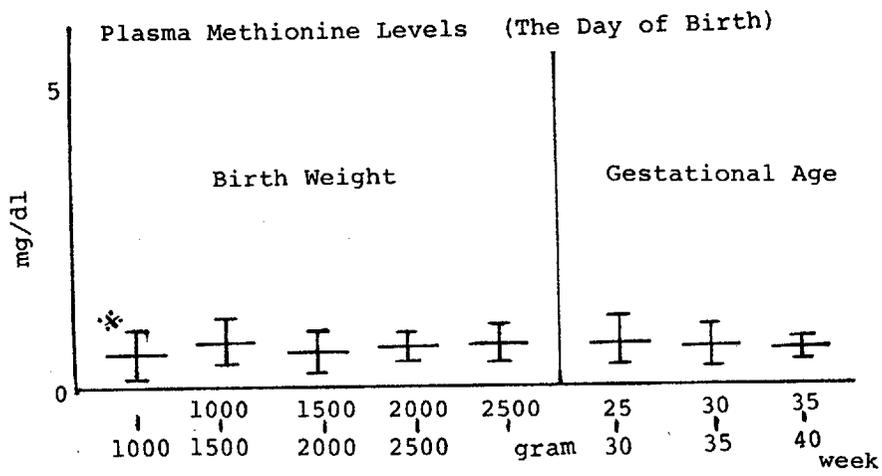
極小未熟児における血中アミノ酸レベル と、マススクリーニングの採血時期

名古屋市立大学小児科 和田義郎
伊藤仁
森下秀子

新生児、特に極小未熟児における血中のアミノ酸レベルが生後の酵素系の発達や、ミルク摂取量の変動により、どのような影響を受けるかということを見る為に、生後0日以内の各アミノ酸量を出生体重別、左胎週数別に検討した。(今回は、Aspartic Acid、Glutamic Acid、Methionine、Leucine、Glycine、Tyrosine、Phenylalanine、Histidine の8種類について述べる。)結果は、表に示すように、Asp. Met. Leuのグループ、Glu acid. Tyr. Phe. Hisのグループ、Glyの3つの傾向があることが理解できた。

ミルク量との関係を見る目的で、経時的に3例の症例をSamplingしたが、Tyrのみが、ミルク量の増加と共に増量する傾向は伺えたが、ミルク量や、生後日数により、どの時点で、血中レベルが一定になるのかは、不明であり、今後検討を要するのであろう。

マススクリーニングの為の採血時期に関しては、今後多くの症例についてのdataを収集し、極小、又は極々小未熟児のマススクリーニング採血時期に結論を出したい。



* Mean ± 1SD



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



新生児、特に極小未熟児における血中のアミノ酸レベルが生後の酵素系の発達や、ミルク摂取量の変動により、どのような影響を受けるかということを見る為に、生後0日以内の各アミノ酸量を出生体重別、左胎週数別に検討した。